



# 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 専用アンチ・ドーピングラボラトリー基本計画(抄)

---

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

# はじめに

この基本計画は、東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）において、国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）及び世界アンチ・ドーピング機構（WADA）から示されている条件を満たす大会専用アンチ・ドーピングラボラトリー（大会専用ラボ）の構築及び運営について、確実に実行するために取りまとめたものである。

この中で、大会専用ラボに求められる役割と機能、規模等について基本的な考え方を整理したうえで、設計、工事、分析機器設置等、大会専用ラボ整備を進めるに当たっての基盤となるよう策定した。

# アンチ・ドーピング活動とは

アンチ・ドーピング活動とは、「ドーピングに反対し、スポーツの価値を守る活動」であり、世界共通のツールで展開されている。

## 【教育・啓発活動】

アスリートやスポーツに関わる方に、アンチ・ドーピングの理念や知識を普及する。

## 【ドーピング検査】

ドーピング違反を摘発するとともに、アスリートがクリーンであることを証明する。

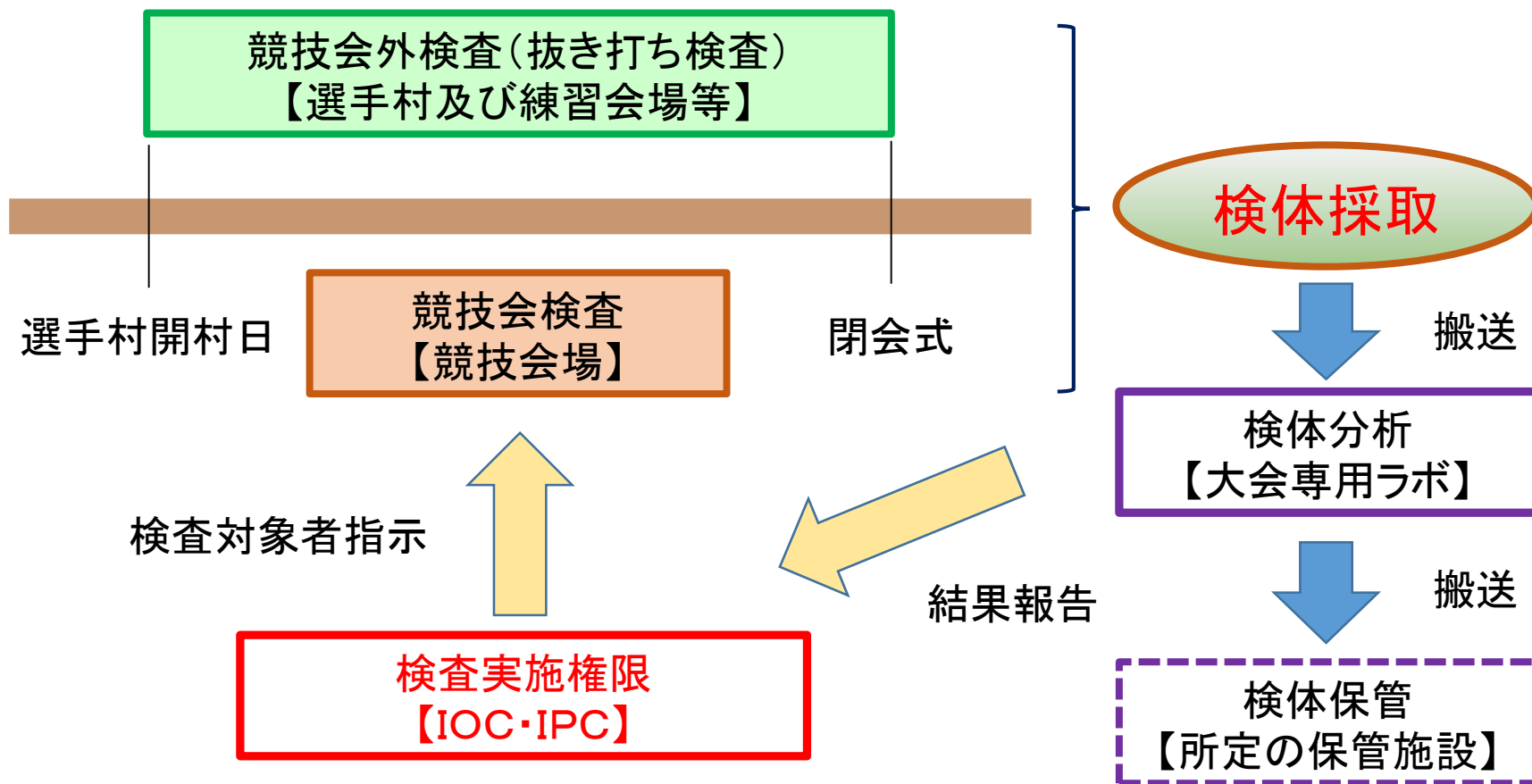
ドーピング検査における検体分析は、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）が認定した分析機関のみで実施する。

## 【我が国のWADA認定分析機関】

我が国では、東京ラボラトリー（既存ラボ）1カ所のみがWADAから認定されており、株式会社LSIメディエンス（LSIM）が運営。

# 東京2020大会のドーピング・コントロール

## 東京2020組織委員会の責任において実施する工程



# 大会専用ラボの設置

東京2020大会期間中は、国内で年間に採取される検体と同等数を分析しますが、通常は10日間をかけて報告を行うところ、24時間以内に報告しなければならず、既存ラボの規模では対応しきれない。

よって、IOC、IPC及びWADAから示されている条件を満たす東京2020大会専用アンチ・ドーピングラボラトリー（大会専用ラボ）を別途、設置する。

## 【予想検体数】

東京2020大会期間中の予想検体数は、以下のとおり。

オリンピック : 5,000検体

パラリンピック : 1,500検体

合計 : 6,500検体

\* 過去大会を参考にしたものであり、今後変更する可能性がある。

# 運営原則

1 日最大約400検体の分析に対応することを想定し、必要な分析機器及び人員等を備えたうえで、24時間稼働する。

適正なドーピング・コントロールを実施するために、警備員の配置、フェンス及び監視カメラの設置などのセキュリティー対策等を検討する。

## 【スタッフ】

3交代シフト制で検体分析業務に従事するスタッフは、国内の人材のみならず、諸外国のWADA認定アンチ・ドーピングラボラトリーからも幅広く集めることを検討する。